

平成二十六年 青年教学3級・初級 試験練習問題

世界広布と創価学会

「1」 仏教の人間主義の系譜

(一)の中に入る語句を、末尾のページの語群Iから選んで答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

(1) 仏教を開いた釈尊は、(1) ()として万人が羨む、満たされた境遇にいました。しかし若き日、(2) ()という免れられない人間の苦しみを目の当たりにし、今は青春の真つ只中で健康に生きていても、これら四苦は免れがたいことを知り、その根源の苦悩の解決法を探究しようとして出家しました。

人間が生きる意味を明らかにする正しい思想・哲学を求めたのです。

(2) 釈尊は古代インドの言葉で、(3) ()という意味の「ブツダ」と呼ばれます。仏教の教えの中核は、この釈尊が目覚めた「法」です。

(3) 釈尊は、根源的な無知(無明)から解放された自己の本来の清浄な生命に立ち返ることにより、自己の尊厳を自覚し、さらに他者の尊厳への尊敬を教えました。すなわち(4) ()の教えです。仏教で説く(同4) ()とは、他の人も自身と同じように大切な存在であると知って、他の人を大切にすることです。

(4) 釈尊が亡くなった後、釈尊のさまざまな言行が弟子たちによってまとめられ、その中でも、慈悲と(5) ()を根幹とする教えが(6) () 經典として編纂されていきます。その精髓が法華経であり、「(7) ()の王」とたたえられます。

法華経には、「一切衆生を自分と(8) ()に高めたい」という釈尊自身の長遠な過去からの願いが、法華経を説くことで満たされたと説かれ、その釈尊の永遠の願いを継承し実現していくことを繰り返し呼びかけています。

(5) 日蓮大聖人は、混迷する社会にあって民衆の苦悩に(9) ()され、仏法の継承を誓い諸經典を探索され法華経に解答を見出されました。

仏教に対する無理解と旧来の思想への誤った固執に基づく権力者などからの厳しい弾圧に屈することなく、民衆を励まし蘇生させていく実践を、法華経の教説の通り、命懸けで貫かれたのです。

大聖人は、法華経の肝要の教えを取り出して「南無妙法蓮華経」と唱える(10) ()行を確立し、(11) ()を御凶顕されます。

(12) ()には「国を失い家を滅せば何れの所にか世を遁れん汝須く(13) ()を思わば先ず(14) ()を禱らん者か」(31頁)と、人々の幸福

の基盤となる世界の平和と繁栄を訴えられています。

大聖人が生涯の実践の根幹とされた(15) ()こそ、人間生命と社会を破壊

するエゴイズムを克服していくための、釈尊以来の努力に連なる、新たな人間主義の実践に他なりません。その機軸は、理性と人間性に満ちた「(16)」だったのです。

(6) 日蓮大聖人の思想と行動を、命を賭して、現代に蘇よみがえらせたのが、牧口先生、戸田先生、池田先生という(17) です。

その指導に基づいて行われる学会員の日々の活動は、唱題の実践によって、自身を深く見つめ、人生のさまざまな課題に挑戦する内なる勇氣と希望を引き出すとともに、豊かな人格の完成を図っていきます。この実践を「(18)」と呼んでいます。

日蓮大聖人の御書や池田名誉会長の指導などを学び、それぞれの実践体験を語り合いながら、相互に励まし合い支え合っています。自らの信仰体験や仏法思想を友人・知人に語り、創価の人間主義の運動への理解・共感を広げ、活動する同志を拡大しています。

(7) 日蓮仏法の実践は、どこまでも(19) の実現を目指し、それぞれの家庭・地域・職場における役割をしっかりと果たし、なくてはならない存在として(20) を勝ち得ることを目指しています。

創価学会では、現代世界が抱える(21) へも積極的に取り組んでおり、世界各国での核の脅威展の開催や難民救援活動、そして環境展などを通し、平和の大切さと生命の尊厳、人権の尊重、地球環境保全などを訴えています。

釈尊から日蓮大聖人にいたる人間主義の哲学と実践の系譜けいふを、現代において再発見し、仏教の真髄として認識し、尊重するとともに、現代から未来へ継承し伝えていく活動を展開し、各人の立場でそれを実現していく人材群の輩出のために、たゆまぬ努力を続けているのです。この人類の幸福と(22) を実現しゆく運動を「(23)」と呼んでいます。

インドから東へと向かい日本に伝わった仏教は、いま、日本から西へと還っていることを(24) と言い、現在、世界一九二カ国・地域に広がっています。

〔2〕日顕宗を破す

() の中に入る語句を、末尾のページの語群Ⅱから選んで答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

(1) 広宣流布を破壊しようとして、魔性を現したのが「日顕宗」です。日顕宗とは、(1) に絶対的な権威・権力があるとし、日蓮正宗第67世の法主を名乗る阿部日顕が支配してきた日蓮正宗(2) のことです。

日顕宗は、第2次(同2) 事件が勃発してより、この20年以上の間、日蓮大聖人の仏法の教義と御精神にことごとく違背し、(3) の教団と化しました。法主が次の代の日如に代わっても、日顕の(同3) の濁流をそのまま受け継いでいるので、私たちは日顕宗と呼びます。

〈1〉広布破壊の謗法

(2) C 作戦を推進していた日顕宗は、平成3年(1991年)11月、学会に「(4)

「通告書」を送ってきました。そこには御書の引用もなく、学会を（同④）する教義上の根拠も全く示されていませんでした。単に「学会が宗門に服従しないから」という権威的・感情的な主張が繰り返されてきたにすぎません。

「⑤」とは法華弘通なり」（736頁）、「広宣流布の（同⑤）」（1337頁）と仰せのように、（⑥）は日蓮大聖人の御遺命です。創立以来、折伏・弘経の実践に努め、全世界に大聖人の仏法を弘通してきた創価学会の、破壊を企てるということは、（同⑥）破壊の大謗法であり、一切衆生の救済を目指された日蓮大聖人のお心に背く大罪です。

（3）日頭が犯した最大の罪は、五逆罪のうちの「（⑦）」の大罪です。仏の教団を分裂混乱させる行為である「（同⑦）」は、仏の教えを破壊し、人々を迷わせ不孝へと墮とす重罪です。

〈2〉法主信仰の邪義

（4）日頭宗が終始、主張しているのは「法主は絶対であるから、ともかく法主に従え」という、一切の対話を拒絶して（⑧）を進める「法主（⑨）」論「法主（⑩）」です。

法主（同⑩）は、日蓮大聖人の仏法の三宝（仏宝・法宝・僧宝）を（⑪）する大慢心の教義であり、日頭宗が邪教と化した根幹の要因です。

彼らは法主が大御本尊と不二の尊体であるとし、法主を絶対なるものとして礼拝し、信仰せよとの邪義を主張しています。（⑫）をお守りする役割の法主が、いわば、極の法そのものの体である（同⑫）と同等の地位にまでの上がった教義です。これほどの前代未聞の邪義はありません。

（5）「此の（⑬）能く能く信ぜさせ給うべし」（1124頁）

「無二に信ずる故によつて此の（⑭）の中へ入るべきなり」（1244頁）

これらの御金言の通り、「（⑮）根本の信心」こそが、大聖人・日興上人以来の正しい信心です。

（6）「時の（⑯）為りと雖も仏法に相違して（⑰）を構えば之を（⑱）」

「時の（同⑯）或は習学の仁に於ては設い一且の（⑲）有りと雖も（⑳）に差置く可き事」（1619頁）

（7）これら二つの御文は日興上人がお認めになった（㉑）の中にある御文です。この「遺誠置文」に照らしても、法主を絶対視することは、日蓮大聖人・日興上人に完全に違背した邪義であることは明白です。

〈3〉 誤った血脈観

()の中に入る語句を、末尾のページの語群Ⅲから選んで答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

(8) 前の法主から「(22) ()」を受けるだけで、仏の内証、法体が、次の法主へ伝えられるとする日頭宗の「神秘的」な血脈観は、日蓮大聖人、日興上人の教えとは無縁の(23) ()であり、後の時代の者が、(24) ()を主張するために作ったものです。

(9) 日蓮大聖人の仏法における血脈とは、本来、(25) ()に開かれたものであり、一部の者が独占するものではありません。

「生死一大事血脈抄」に「日本国の(同25) ()に法華経を信ぜしめて仏に成る(26) ()を継がしめん」(1337頁)と仰せです。

(10) 日蓮大聖人の仏法においては、「血脈」といつても、結論は「(27) ()の血脈」(1338頁)という表現にあるように「(同27) ()」のことです。

これに対して、信心、実践と関係なく、相そうじよう承しょうされれば、そのまま仏であるとする日頭宗の特権的・神秘的相承観は、「(同27) ()の血脈」という血脈の本義から大きく外れた邪義なのです。

〈4〉 僧俗差別

(11) 日頭宗には、「僧が上で信者は下」という、信徒に対する「(28) ()」が染しみついていきます。例えば日頭が(29) ()年に学会を切ろうとした際に「二十万、こっちにつけばいい」と語ったのは有名ですが、この「二十万」というのは、自分たちが(30) ()を続けるための人数です。こうした発言自体、信徒の(31) ()を全く考えていないことを物語っています。

(12) 信徒蔑視べつしの思想は、日蓮大聖人の仏法には存在しません。日蓮大聖人は次のように明確に僧俗の(32) ()を説かれています。

「此の世の中の(33) ()は嫌うべからず法華経を持たせ給う人は一切衆生のしう(主)とこそ仏は御らん候らめ」(1134頁)

「(34) ()も一句をも人にかたらん人は如来の使と見えたり」(148頁)

(13) 日頭宗が僧俗の平等を真つ向から否定する背景には、(35) ()時代を中心に日本の仏教が葬式仏教化し、(36) ()が普及したことがあげられます。

これにより僧侶と信者の間に、支配⇨依存関係ができてしまったのですが、日頭宗はこの(同36) ()の弊へいがい害を深く残している時代錯誤の集団なのです。(37) ()義は、その象徴です。

〈5〉 化儀の悪用

(14) 現在、宗門が行っているような僧侶による葬儀、法要、戒名などの(38) ()は、大聖人御自身が定められたものではなく、のちの時代に作られたものにすぎません。日頭

宗はこれらの（同③⑧）を悪用し、仏法を（③⑨）の道具にしてきたのです。葬儀について宗門は、（④⑩）による葬儀が成仏のために不可欠であると主張していますが、そのようなことを大聖人は一切言われていません。むしろ、「過去の慈父尊霊は、存生に南無妙法蓮華経と唱えしかば、即身成仏の人なり」（1423^頁、通解）等と仰せのように、各人の成仏は、（④⑪）の信心・実践によることを強調されています。

大聖人の御教示を無視して、（同④⑩）による葬儀が成仏のために不可欠などと言うこと自体、大聖人の仏法を歪める大罪です。

〈6〉腐敗墮落

（15）大聖人は、僧侶の在り方について、「ただ正直にして、（④⑫）たらん僧こそ、真実の僧なるべけれ」（1056^頁）と、欲望が少なく、わずかで満足する質素な振る舞いであるべきことを示されています。しかし、日顕をはじめ、日顕宗の悪僧の実態は、腐敗墮落を極め、大聖人の御教示とは、全く逆のものになっています。

大聖人は、こうした仏法利用の悪僧について、「（④⑬）の皮を着たる畜生」（1386^頁）、「（④⑭）がき（餓鬼）」（1111^頁）と厳しく破折されています。

（16）創価学会は、邪宗門の黒い鉄鎖を断ち切り、いわば「魂の（④⑮）」を果たしました。以来、年を重ねるごとに広宣流布は進展し、今やSGIの連帯は世界192カ国・地域まで広がるに至りました。

これに対して、日顕宗は衰退の一途をたどっており、信者数は学会を破門する前のわずか（④⑯）%にまで激減しています。現実の姿の上からも、また、仏法の上からも、その正邪はあまりにも明らかです。

大聖人の御遺命である広宣流布を実現する学会にこそ、日蓮仏法の本義は脈々と受け継がれているのです。

解答

「1」仏教の人間主義の系譜

- | | | | | |
|--------|-----------|------------------------|-------------------------|--------|
| ① 王子 | ② 生老病死 | ③ 目覚めた人 | ④ 慈悲 | ⑤ 智慧 |
| ⑥ 大乘 | ⑦ 経 | ⑧ 同じ境涯 | ⑨ 同苦 | ⑩ 唱題 |
| ⑪ 御本尊 | ⑫ 立正安国論 | ⑬ 一身の安堵 ^{あんど} | ⑭ 四表の静謐 ^{せいひつ} | ⑮ 立正安国 |
| ⑯ 対話 | ⑰ 創価の三代会長 | ⑱ 人間革命 | ⑲ 自他共の幸福 | |
| ⑳ 信頼 | ㉑ 地球的問題群 | ㉒ 世界平和 | ㉓ 広宣流布 | |
| ㉔ 仏法西還 | | | | |

「2」日顕宗を破す

〈前文〉

① 法主

② 宗門

③ 謗法

〈1〉 広布破壊の謗法

④ 破門

⑤ 大願

⑥ 広宣流布

⑦ 破和合僧

〈2〉 法主信仰の邪義

⑧ 独善化

⑨ 絶対

⑩ 信仰

⑪ 破壊

⑫ 御本尊

⑬ 曼荼羅

⑭ 御本尊の宝塔

⑮ 御本尊

⑯ 貫首

⑰ 己義

⑱ 用う可からざる

⑲ よう犯

⑳ 衆徒

㉑ 日興遺誠置文

〈3〉 誤った血脈観

㉒ 血脈相承

㉓ 邪義

㉔ 法主の權威

㉕ 一切衆生

㉖ 血脈

㉗ 信心

〈4〉 僧俗差別

㉘ 差別思想

㉙ 平成二

㉚ 贅沢三昧の生活

㉛ 幸福

㉜ 平等

㉝ 男女僧尼

㉞ 僧も俗も尼も女

㉟ 江戸

㊱ 檀家制度

㊲ 僧俗差別

〈5〉 化儀の悪用

㊳ 化儀

㊴ 金儲け

㊵ 僧侶

㊶ 生前

〈6〉 腐敗墮落

㊷ 少欲知足

㊸ 法師

㊹ 食法

㊺ 独立

㊻ 2

「1」仏教の人間主義の系譜

《語群 I》

- | | | | |
|--------|-----------|-----------------------------|----------|
| A 同苦 | B 創価の三代会長 | C 目覚めた人 | D 信頼 |
| E 智慧 | F 立正安国論 | H 同じ境涯 | I 王子 |
| J 唱題 | K 対話 | M 一身の安堵 <small>あんど</small> | N 世界平和 |
| O 立正安国 | P 御本尊 | Q 生老病死 | S 自他共の幸福 |
| T 慈悲 | U 地球的問題群 | R 人間革命 | W 広宣流布 |
| X 経 | | V 四表の静謐 <small>せいひつ</small> | |

「2」日顕宗を破す

《語群 II》 ① ～ ②1 まで

- | | | | | |
|--------|-------|----------|-----------|----------|
| A 破和合僧 | B 信仰 | C 広宣流布 | D 御本尊 | E 衆徒 |
| F 己義 | G 曼荼羅 | H 法主 | I 用う可からざる | |
| J よう犯 | K 謗法 | L 日興遺誠置文 | M 独善化 | N 大願 |
| O 破壊 | P 宗門 | Q 御本尊 | R 貫首 | S 御本尊の宝塔 |
| T 絶対 | U 破門 | | | |

《語群 III》 ②2 ～ ④6 まで

- | | | | |
|--------|--------|---|--------------------------------|
| A 差別思想 | B 僧侶 | C 僧も俗も尼も女 | D 少欲知足 <small>しょうよくちそく</small> |
| E 血脈 | F 平等 | G 邪義 | H 幸福 |
| J 檀家制度 | K 血脈相承 | L 贅沢 <small>ぜいたく</small> 三昧 <small>さんまい</small> | I 法主の権威 |
| N 独立 | O 信心 | M 贅沢 <small>ぜいたく</small> 三昧 <small>さんまい</small> の生活 | M 2 |
| S 法師 | T 僧俗差別 | P 平成二 | R 江戸 <small>じきほ</small> |
| X 金儲け | Y 生前 | U 男女僧尼 | W 食法 |
| | | V 化儀 | |